

## 保護者等向け 児童発達支援評価表

公表日：

事業所名：児童発達支援 児童発達支援・放課後等デイサービスmela

対象人数（保護者）2人 回答者数 2人 回収 100%

チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない
環境・体制整備				
1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	2			
2 職員の配置数は適切であると思いますか。	1	1		
3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境（※1）になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	2			
4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	2			
適切な支援の提供				
5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	2			
6 事業所が公表している支援プログラム（※2）は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	2			
7 子どものことを十分に理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）（※3）が作成されていると思いますか。	2			
8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	2			
9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	2			
※ 事業所の活動プログラム（※4）が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	2			
※ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	2			
保護者への説明等				
※ 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	2			
※ 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	2			
※ 事業所では、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング（※5）等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1	1		
※ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	2			
※ 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	2			
※ 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	2			
※ 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされていますか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2			
※ 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	2			
※ 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	2			
※ 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	2			
※ 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	2			
非常時等の対応				
※ 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	2			
※ 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	2			
※ 事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	2			
※ 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	2			
満足度				
※ 子どもは安心感をもって通所していますか。	2			
※ 子どもは通所を楽しみにしていますか。	2			
※ 事業所の支援に満足していますか。	2			

※1 「本人にわかりやすく構造化された環境」とは、子ども本人がこの部屋で何をすることがわかりやすいよう、机や本棚の配置などを工夫することです。

※2 「支援プログラム」とは、事業所における総合的な支援の推進と事業所が提供する支援の見える化を図るため、事業所で行われている取組等について示し、公表することが求められています。

※3 「児童発達支援計画（個別支援計画）」は、児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援方針や支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。

これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成し、保護者等への説明を行うとともに同意を得ることを義務付けられているものです。

※4 「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。

子どもの発達状況や障害の特性等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

※5 「ペアレント・トレーニング」は、保護者が子どもの障害の特性やその特性を踏まえた子どもへの関わり方を学ぶことにより、子どもの行動変容することを目標とします。

タイムスタンプ	2/12/2026 11:27:33	2/16/2026 22:49:30
1.利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	今は児童の人数が少なく余裕があるが、今後人数が増えた時に割り振ったり施設の利用の仕方を考える必要があると感じた	はい
2.利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	はい	はい
3.生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	はい	はい
4.生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	全巻空調が適温。運動系の活動の際は少し暑く感じる。	はい
5.必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	はい	はい
6.業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	朝の申し送りや前日の事を振り返ったり、今日の利用児童にどうアプローチするか職員全体で話し合い、実施している	はい
7.保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	はい	はい
8.職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	はい	はい
9.第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	いいえ	はい
10.職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	はい	はい
11.適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	いいえ	はい
12.個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	はい	はい
13.児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	はい	はい
14.児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	はい	はい
15.こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	はい	はい
16.児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	はい	はい
17.活動プログラムの立案をチームで行っているか。	はい	はい
18.活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	はい	はい
19.こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	はい	はい
20.支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	はい	はい
21.支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	時短なので業務後に話し合いはできないが、次の日に振り返りを行っている。	はい
22.日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	はい	はい
23.定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	はい	はい
24.障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	はい	はい
25.地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	はい	はい
26.併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	支援内容に関しては保護者に伝えていますが保育園には書類を渡してない。ただ送迎時などに園での様子や困り事を伺い、当施設でも近付け支援している。	
27.就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	まだ移行がないのでわからない。	
31.地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	いいえ	はい
32.保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	いいえ	
33.日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	はい	はい
34.家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	子どもと保護者を同時に支援は行っていないが、保護者から困り事の要望や施設から直接伝えたいときはご連絡し、保護者に来てもらって対応している。	はい
35.運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	はい	はい
36.児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	はい	はい
37.「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	はい	はい
38.定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	はい	はい
39.父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2月下旬に予定している。	はい
40.こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	はい	はい

41.定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	はい	はい
42.個人情報の取扱いに十分留意しているか。	はい	はい
43.障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	はい	はい
44.事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	いいえ	
45.事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	はい	はい
46.業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	はい	はい
47.事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	はい	はい
48.食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	まだアレルギーの子どもの利用がない。又当施設で提供するお菓子もアレルギーの子どものいる場合、その子どもが食べられるものだけしか出さない。	はい
49.安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	はい	はい
50.子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	はい	はい
51.ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	はい	はい
52.虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	はい	はい
53.どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	はい	はい

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービスmela

## 支援プログラム(参考様式)

作成日 2025年 2月 12日

法人(事業所)理念	株式会社mela(児童発達支援・放課後等デイサービスmela)。年齢、地域などに関係なく、すべての人のGIFT(才能)を咲かせ、次の時代に繋げること		
支援方針	お一人お一人にあった個別療育の提供(ADLなど)や、集団活動での集団療育、コミュニケーション向上目的でのSST、身体機能向上目的での、リズム体操や運動療育、屋外活動さらに、社会の一員となれるよう社会活動として、地域への活動の参加や挨拶の習慣化を支援して参ります。		
営業時間	9時	30分から	18時0分まで
	送迎実施の有無	あり なし	
支援内容			
本人支援	健康・生活	健康：手洗いの指導・咳エチケットの指導・健康状態確認・時期による感染症の説明 生活：挨拶の指導・買い物支援・散歩・地域活動・掃除・着替え支援・食事動作支援・トイレトレーニング	
	運動・感覚	運動：リズム体操・筋力訓練・バランス訓練・ストレッチ・屋外活動・ボディイメージの促進感覚：ボディイメージの促進支援・ビジョントレーニング・感覚遊び	
	認知・行動	認知：視空間認知の促進・注意機能支援・衝動性の発散と対応支援行動：挨拶・防災訓練・交通ルール支援・通学支援・公共マナーの支援	
	言語コミュニケーション	言語：言語理解・言語表出・言語療育・単語獲得支援 コミュニケーション：SST・言葉の使い方支援・表情読み取り支援	
	人間関係社会性	人間関係：言葉の使い方・TPOの確認と支援・お友達との約束の仕方・集団ゲーム・集団活動 社会性：挨拶支援・買い物支援・地域活動への参加	
家族支援	日々の情報共有・家族支援加算における概ね月1～2回程度の面談・支援相談	移行支援	園・学校との情報共有・地域のサービスの開拓
地域支援・地域連携	町内会への参加・就労施設への職員見学・近隣の高校を情報収集相談事業所との情報共有	職員の質の向上	概ね月1回程度の研修(虐待・感染・身体拘束・支援内容等その月による)研修への積極的な参加・支援に関わる資格の取得
主な行事等	保護者会・課外活動(今後の予定：長期休みの宿題週間・eスポーツプロからのゲームの指導・アルソックとの安全教室・警察署・消防署などの見学・外食など企画中)		

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービスmela		
○保護者評価実施期間	2026年 2月2日		2026年 2月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2 (回答者数)	2
○従業者評価実施期間	2026年 2月2日		2026年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2 (回答者数)	2
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 9日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	安全性が高い 建物が新しく、耐震性に優れている。 消防法の遵守、置き去り防止装置の検知、見守りカメラ、車が新車(数ヶ月に1度トヨタカローラにて点検している)	安全性に常に気をつけて、消防法の遵守、置き去り防止装置の検知、見守りカメラ、車が新車(数ヶ月に1度トヨタカローラにて点検している)ヒヤリハットや事故報告の記入と周知の実施。	ヒヤリハットなどは集計をしているが、分析までは至っていないので、今後はどこの時間、どこの場所など危険が起きやすい場面を分析し職員間で情報共有しながらより安全に努めていく
2	個別性の高い療育の提供	児童発達支援管理責任者が作業療法士でもあるので、個別性の高い療育のPDCAを回しており、さらに朝の申し送りの時間をしっかり取ることで、何を目的に本日の療育をするのかを職員全員が知っている状況で療育を提供している。職員研修なども積極的に参加しており、知識、技術の更新を常に行なっている。	作業療法士だけでなく、他の職種からの意見も盛り込みながら療育の幅を広げていく。一人の職員の負担にならないように業務バランスを見ていく。
3	先を見据えた療育を検討	未就学児の時から、就学に向けた取り組みや、近隣の小学校、中学校、高校などの情報を更新し、収集している。また就職も見据えた就労Bの職員研修や、保護者会での情報周知などを行なっている。	職員だけではなく、保護者様やご本人様も高校や就労施設などの見学をするイベントの開催を行なっていく予定。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訓練指導室の大きさ	土地が足りなかった	活動時に屋外の公園や公共施設をうまく利用しながら、療育に適した場所の確保を行う
2			
3			